川口町公民館報

公民館報

第42号

発行人　星野輝政
編集人　金子　真
印刷所　山静堂印刷所

一九六〇年 年頭のことば

川口町長　大淵鉄太郎

町民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。昨年春の選挙には、町民各位の絶大なる御支援をいただき町行政を担当させていただくことが出来ましたことに対し深く感謝の意を表します。

昨年は多年に亘る懸案の諸事業の整理に追われ、新鮮味のある行政を行うことが出来なかったのでありますが、計画中のガス工事も予定通り進捗し近く各家庭に供給出来る段階に至ったことは先づ以って喜ばしいことであります。

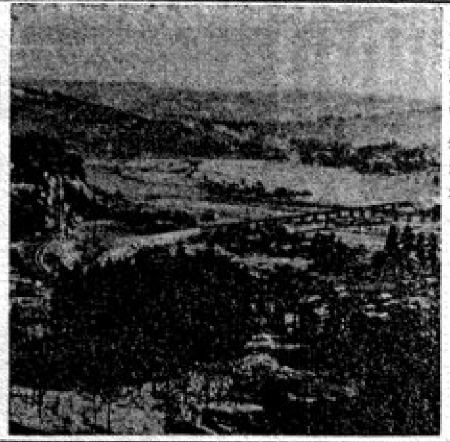
又昨年七月に発生いたしました台風による災害に対する復旧工事も職員の努力と町民のみなさまの御協力によって大体その工事が完成の域に達したこともみなさまと共に喜びたい事柄であります。

さて本年は道路の改修、各河川工事への着手、特筆すべき事は学校の施設設備の拡充強化は論を俟たないが、特に緊急を要する老朽校舎の整備を第一主眼で進まなければならないと考えておりますので皆さまの御協力によりましてこれらの各種事業が円滑に進み之れが実現を期したいと祈念して止まないのであります。

加えて本年は特に社会教育の面に力を注ぐことであります。町行政の下地を作り、町行政の先行的役割を果す極めて重要な社会教育の推進に注目しなければなりません。

比較的低調といわれたこの川口町の社会教育も最近はようやく発展の気運が見え始めて参りましたこの機を逸さず両努力しなければなりません。社会教育法の一部改正に伴い、専任職員の設置を始め予算の面にも認識を新たにそれと取り組みたいと考えております。

ともあれ本年は一層明るい町政へと力強くその歩を進めるべく不断の努力を惜しまぬ心算でありますので、何卒町民各位の御理解ある御鞭撻をお願い致しまして新年の御挨拶といたします。



緊急な年を迎えた 町の教育行政

教育長　星野輝政

皆様明けましてお芽出とうございます。

地球がくるりと一回転して又新しい年がやって来た。

過ぎ越し方をふり返り思いを新たにして迎えた一九六〇年……いつもこうした感慨にふけるのだが……夢のように去られて行く人生行路の中に――その夢を必ず実現しなければならないチャンスと年代があることと考える。

繰返し繰返し叫ばれて来た老朽校舎の新築もその年代が来たことを痛感する。一軒の家に例えてもオラが代に新しい家を造りたい。今何年後にはアレコレと順調になるからと大きな夢と期待をもって営々と仂くが百パーセントその計画どおりに運べないのが人生で、家は傾く、壁は落ちる、土台は朽ちる、止むに止まれず造りかえる?のが一般の歩みである。

吾が町も同様な情況で止むに止まれず我慢も限度がある年代が到来したのである。大方の意向は一日も早く新しい校舎でスクスクと将来の希望と成功を託されて延び行く可愛い子等の為に、寸刻を許さず近代的殿堂に高く統合校を盛れと声援されているので、本年こそ実現することが無論の急務と考える。

大衆的見地から教育百年の殿堂を築き上げるに町民全体一丸となった御協力を伏してお願いする次第である。

皆さんも御承知のように義務教育の教育課程の改訂問題は、小学校は三六年度から中学校は三七年度から国の意図に沿うべく施設設備を充実しなければならない。この設備をするに手のくだしようのない現在の老朽と狭隘な校舎であることを充分御理解あらんことを希望するものである。

次は高校進学者の少い当町の教育進路の現状は実に寒心に堪えない。これ等の現況は父兄の教育への熱意と理解とに俟つものは極めて大きいが卒業期に入ると父兄の考え方は急角度に変って、家事手助と出稼ぎに方向づけて向学に燃える子供の意見は殆ど踏みつけられて行かねばならないのが現実の姿のように見られる。この向学心に燃える子等のために家庭の手不足か若干の経済的のためで余儀なく断念される。だが真実人達の将来に思いをいたすとき……私は……なぜ六三三制実施の当時、川口町に定時制高校設置しなかったのかと残念に思う次第である。

小千谷市内に普通高校の外に片貝吉谷に定時制高校があるではないか。南魚沼郡を見ても六日町高校の外に浦沢、大巻、城内、浦院、道沢の五ヶ所の分校設置があり、古志郡栃尾高等学校の外に上塩谷西谷、上北谷、東谷の四ヵ所あり、これ等を見るとき吾が川口町に定時制分校設置は当然であり、その必要こそ目睫に迫られていることを痛感する。幸に之れが実現を見るならば、中学卒業者は家事手助の合間も将来川口町を背負つたらんとするものは等しく仂きつつ勉強し、仂きつつ高校卒業の資格を獲得することも容易であり、併せて近時頻繁に起る青少年の不良化防止に寄与し、町の将来に大きく約束することが極めて大きいのである。

私は青少年の頃は独学の通信教授によって検定試験に、資格試験に、十年の苦しみをしたことを終生忘れることが出来ない思い出であることを考えるたびごとに、これから中学の学窓を巣立ち川口町の生産と経済を守り続ける若人の将来のために、少くも定時制学校設置の急務を叫び、大方の御声援と之れが実現を念願する次第である。

更に将来は三魚沼郡中心部として立つ地理的交通の天恵的立地条件を持つ当町に実業高等学校（農業）の設置の夢を捨てることは出来ない。これ等の実現こそ川口町を益々発展せしむる原動力となることは期して待つものこと確信する次第である。

新春雑感

○親苦労　子楽　孫乞食

徳川家康は創業で苦労、秀忠はお座で楽（ラク）をしきて三代目は乞食と出ないで、名君と出たので徳川幕府の礎は築かれた。

明治、大正、昭和の三代目も戦争の戦禍を転じて平和の基を招来するよう希念してやまない。

○織田がこね、羽柴が搗きし天下餅、骨も折らずに食うは徳川――世は運か根か鈍か将又、人徳か器量か、政治力の仕業か。

○社会教育で一番至難なのは親爺教育であるという。それでこそ親爺教育は敬遠されてきた。おや爺の持てる多年の経験と見識は尊重する。しかし身近の例でいうなら親爺クラスにも町政の理解が不足のこともあり得る。それは「知る意欲」と「知らせる努力」が欠けているからだ。知る意欲と知らせる努力はその先後は問わない。殻を破って生れ出ようとするヒヨコの意欲と殻を割って生れ出さうとする親鳥の努力は同時機でありたい。

知ったり知らせたりして、理解の上に努力の花を咲かせる事が社会教育の大きな使命の一つだ。

「知るは愛するの始だ。縁なき衆生は済度し難い」と云われている。町行政と社会教育とを結ぶ公民館の責任は大きい。

○一九六〇年は国際緊張の緩和と宇宙開発の年である。東西の文化交流を始め南極条約を通じさては東西両巨頭の会談これ皆緩和剤となり雪解となる。富強を誇る米ソも自国の軍拡と衛星国の援助には自ら限度がある。況んや自他共に絶滅する科学戦を回避するのは当然である。地球人二十余億は宗教、人種的思想を超えて斉しく平和への転換を希求している。戦争によって高められた科学技術を平和へ利用して人類の福祉を増進することは科学者の最高のつとめである。

国際間の緊張解消は何時の日か。ユートピア建設の主導権者は誰か。

○月の世界へのユメは今や実現可能に輝いている。世界の科学者は宇宙開発に全力を競っている。

科学者は平和建設と宇宙開発に科学や技術を動員し為政者は国際的にも国や地方自治体にも緊張を緩和し、より平明に透徹した明るい公正の政治を推進することを希念して止まない。（一、一）

十二月二十五日 川口町議会 議案目録

第一号　昭和三十四年度川口町才入才出追加更正予算議決について

第二号　公平委員選任について同意を求めること

第三号　上川土地改良区に融資の為借入金の限度増額について

第四号　南原土地改良区に融資のための借入金について

第五号　中新田土地区画整理組合に融資のための借入金について

婦人講座 開設さる

田麦山の婦人会では七日正月の日を期して婦人講座が開設される。青年会を主体としてテレビ教育、メートル法の使い方、その他ニュース解説、小学三、四年位までの学課について簡単に教えられるものを一ヶ月間、三月に入ると週に一回乃至二回位勉強すると張り切っている。

謹賀新年

議長　山田寅之助

副議長　上村忠作

◎委員長　○副委員長

委員名	氏名
○土木	渡辺文次郎
総務	宮真五郎
総務	喜多村清松
総務	星野林之助
総務	大淵洋治
土木	星野光蔵
◎総務	青柳　弘
社文	関　正治
土木	平沢　茂
社文	小宮山久作
○社文	古田島徳八
◎社文	星野武夫
土木	関　久作
社文	目黒寅吉
◎土木	小宮山賢吉
土木	上村忠作
○総務	小見芳雄
総務	佐藤角一郎
土木	綱　治平
社文	樋口三郎
社文	石坂金次

教育委員会

委員長　河上徳太郎

委員　大淵清治

委員　鈴木六郎

委員　星野房吉

教育長　星野輝政

牛歩の如く一歩一歩

推進したい新生活運動

川口町公民館長

昨年の一ページの厄歳祝事の簡素化運動も各地区公民館のたゆまざる努力によって東部、西川口、田麦山、木沢の各地区館はまずまず軌道に乗って実施に至ったことは誠に御同慶に堪えない。残る地区公民館も漸次実施されることを期待して止まない。

この写真は西川口地区内の厄歳祝行事の一とこまである人生の一大変革期と称される四十二才と三十三才の厄歳も夫々地域社会を始め、大きく現代社会に目を向け、貢献する原動力となるよう大いに発奮し得る絶好の機会であると考えたいものである。加えてこの行事が殿堂の中にも和やかに同年の方々が一堂に会し自らの歩み来たる道をふり返り、更に将来への希望と計画を語り合い、兄妹以上の深いつながりをもちつづけることが出来るなら、新生活運動推進の礎として比類のない機会といえるだろう。

次は公民館新聞の推進である先号に掲載した華実の方法等の案を町民の皆様から御覧を戴き実施の運びに移りたい計画中である。

時代は進み時代は変るとも昔ながらの行事を新しい社会にふさわしく方向づけることは何人も同感であるが、イザ実行となると旧殻から抜け切れぬのが人情である。しかし新年の第一ページを飾いた東部地区公民館の年頭（年始まわり）の行事簡素化運動は実に有意義に取り運ばれ、一般家庭の方々から非常に喜ばれたことと、今後の新生活運動推進に寄与することが極めて大であった。一つの問題点を解決するに容易でないこの運動も皆んなの幸福の為、みんなの住みよい郷土を作る為にとみんなが一段と協力下さるならば、明るい豊かな町造りの何事もスムーズに推進されるのである。

新生活運動は急かず、たゆまざる努力をみんなで牛の歩みの如く一歩一歩着実に築いて行きたいものである。

今年の町の社会教育活動は?

……新春座談会……

出席者

川口町公民館長　星野輝政
田麦山地区館長　大淵寅松
和南津地区館長　喜多村喜市
木沢地区館長　小林三千三
泉水地区館長　鈴木栄次郎
中山地区館　古田島フク
司会　金子　真

去る六日午後一時から新年に当り各地区館長の方々からお集まりいただきそれぞれの地区に於ける社会教育活動について、昨年の反省と今年の抱負を語ってもらった。以下その要旨をのせてみよう。

司会「先づ昨年の状況から問題点をひとつ。」

小林「地理的に恵まれていないことが何よりも問題だ。それに予算が少ないことだろう。やったことは、みんなよかったが木沢全体がおくれすぎているので……。」

喜多村「去年から部落からの寄附を地区館として受け各社教団体に助成してやるようにしたことはよかった。それに問題として持ち越されたことは集会所を建てることだ。今年は是非実現させたい。」

司会「青年、婦人団体の関係は?」

喜多村「それはうまくいっています。」

鈴木「泉水地区は地域が広いので何をするにも思うようにいかないし又昨年は選挙がおそく土地改良の事業もあったし今年はそれらをにらみ合せてひとつ……。」

大淵「こんなこともしたいという部落民の自主性が少ないと思うそれが問題点だと思う。」

司会「中山地区は婦人の立場で何か感じたことを。」

古田島「開田問題もあり地区館長さんも忙がしくて当初は大いに張り切っておられたのですがしばらく地区館活動はおあずけといった感じです。」

司会「各地区館ともそれぞれ大小さまざまの問題点を残して新年を迎えたわけだが館長さんから公民館のPRの方法を一寸おはなし願いましょうか。」

館長「色々のことが考えられるが何んといっても最初はお互いに話し合うことだと思うそこで基盤を作り必要性を感ずるあとは視聴覚教材の利用なども考えられるし、PTAとの連けいを密にすることなんか大切じゃないかな。」

司会「視聴覚の話が出たところで、川口は映写機が一台という他町村にくらべて少ないようですが。」

館長「今年はどうしても何をおいても一台買って地区の利用に供したいと考えている。」

司会「田麦山さんでは録音教材を相当利用されているとか」

大淵「そうです。集会の前にはかならずかけています。効果がありますね。比較的出て来ない人達が来るようになります」

喜多村「最近は和南津も劇物が人気がなく教育的なものが喜ばれるようになってきましたよ。」

古田島「テレビをもっと利用出来たらいいですね。」

司会「じゃここで新年の抱負を話し合ってみましょうか。」

古田島「地区館長さんもお考えだろうと思うけど公民館のPRをしなければ。」

大淵「農家簿記、親父教育、家族制度の検討ということですな。」

鈴木「各分館長を整備して更にPTAとの関連を深めたい。」

喜多村「いろいろあるが公民館を作りたい。それが一番です。」

小林「比較的関心のうすい成人教育から始めたい。」

司会「館長さんの方でこれはと思われることを。」

館長「講演会を多くもち、町民から大いに研修してもらうことと、スライド図書を重点的に揃えていくこと、予算もがんばって獲得したい。しかも存分に活動出来るだけのものをと思っている。各地区への配当もその上で考えたい。」

司会「最後に本館への要望を」

鈴木「女子を対象にした洋裁和裁の技術講習の場所を設置してもらいたい。」

館長「計画があるのでやります。」

小林「予算の増額と映写機を一台どうしても願いたい。」

古田島「婦人学級の開設と食生活の改善を主体にした講座をもってもらいたいです。」

大淵「文化的な講演会を多く開くことと、やはり予算ですね。飛躍したいのは。」

喜多村「何んともヤカタを作ることが目前にあるので格段の協力を願いたい。」

館長「各地区館の要望が実現するよう努力します。」

司会「じゃこの辺で、どうもありがとうございました。」

一人一研究の成果あがる

川口中学校の科学研究活動

“一人一研究”このことは中学校開校以来重点目標であった。毎年九月下旬を校内発表会に予定し郡、県への代表者を決定、現在までに毎年素晴しい成績を上げている。ここに三十年度からの入賞作品及び入賞者を上げてみよう。

◎発明工夫の部

昭和三十年度
チャック付枕　高橋トシ　三等

昭和三十一年度
改良うちわ　中林和子　一等

昭和三十二年度
改良座布団　関　明子　二等
耐久性わらじ　喜多村喜惟作

昭和三十三年度
改良日おい　喜多村朝子　三等

昭和三十四年度
改良風水器　古田島静夫　三等
改良ロルケ・サミ　丸山定治　三等
改良鳴子　北村利夫　佳作

◎模型製作の部

昭和三十年度
中学校体育館　中林　勉　二等
駅と鉄橋　中新井彰　二等
謹運機　三富政男　三等

昭和三十一年度　学校賞二位
男山浪場　星野和久　特等
川口橋　江島謙一　特等
鉄橋　喜多村功　三等
和南津橋　貫張司郎　三等
他佳作五点

昭和三十二年度　学校賞二位
姫路城　樋沢昭夫　二等
家　上村常夫　三等
風車　真島勝男　三等
他佳作一点

昭和三十三年度　学校賞二位
勝鬨橋　金沓　勉　一等
五重塔　片山要弘　一等
火の見やぐら　山田　浩　二等
川口駅東車台　小西勝平　二等
名古屋テレビ塔　真島勝男　三等
他佳作二点

昭和三十四年度　学校賞一位
金閣寺　真島勝男　二等
多宝塔　山田　浩　特等
空母「大鳳」　片山彌二　三等
水車小屋　関三千男　三等
日光「陽明」　貫張大治　岡村　勝　三等
他佳作一点

歳末たすけあい運動の実施について

例年歳末に際して生活困窮者、養老施設に入所者、長期入院患者及び留守家族等に対して「たすけあい運動」を実施し多大の成果をあげて参りましたが、今回もこれらの[illegible]と地域の方々の「たすけあい」精神発揚のため、歳末「たすけあい」運動を実施しました処、年々上昇しつつある「たすけあい」運動が今回特に良好の成果を修め、初期の目的を達し得られましたことはひとえに町民各位の社会福祉に対する熱意と連絡員、婦人会の専心協力の賜であり深く紙上より感謝申し上げます。

又配分先からも感謝の礼状が沢山参って居る事も併せて御報告いたします。

尚本年度の成果並に結果を左記の通り報告します。

歳末「たすけあい」運動結果報告

一、収入及び支出（総括表）

収入
同情袋募金　一八・六二四円
町より　五・五〇〇円
計　二四・一二四円

支出
慰問金　二・五〇〇円
慰問品代　二〇・八〇〇円
雑費　一・六〇〇円
計　二六・六一〇円

二、収入内訳（同情袋）

大字	戸数	金額
和南津	一一二	一・二二一円
中山	一〇一	一・五〇〇
川口	二七四	四・二七八
西川口	二七九	三・八一〇
牛ヶ島	六四	七六〇
武道窪	四〇	五〇〇
相川	一〇三	一・二八〇
荒谷	二五	二八〇
駅	三一	六〇〇
田麦山	二三七	二・七九五
木沢、峠	一一〇	一・三八〇
石油資源	[illegible]	二〇〇
計	[illegible]	一八・六二四

三、支出内訳

保護世帯　[illegible]　一〇・五〇〇円
長期療養者　一八人　七・八五〇円
養老院　四人　一・二〇〇円
留守家族　三戸　九〇〇円
タオル　一七五本　一・七五〇円
手拭　一〇〇本　一・〇〇〇円
同情袋　一〇〇〇枚　一・〇〇〇円
のし袋　三〇〇枚　六七五円
もち　五升　八〇〇円
計　二六・六一〇円

差引不足額二・四九六円は川口町社会福祉協議会より補充しました。

四、「たすけあい」米の一握り運動結果報告

1. 持寄品目　飯米
2. 総数量　一石七升七合
3. 対象者数　一五三人
4. 一人当り配分量　七合

「闘牛の神事」完成!!

古代から伝わる不思議なお祭り闘牛の伝説をこのほど木沢の星野亀吉氏より寄稿をいただいて一年余り、ようやく昨年暮に完成した。

ここに改めて著者星野亀吉氏に万々の感謝の意を表したい。

謹賀新年

川口町長　大淵鉄太郎
川口町助役　佐藤邦平
川口町収入役　石坂久平
川口町教育長　星野輝政

総務課
課長　山田彦作
古田島博英
川上敏夫
山田麻子
喜多村陸子
岡村圭子
ガス水道室長　関口次郎
桜井文夫
中林辰夫

社会課
課長　佐藤精一
関誠一郎
佐藤与司男
関ユリ
保健婦　桜井サト
保健婦　水野トミ
森山ミツ
山田正子
大淵トシ

税務課
課長　岡村賢吾
大淵卓二
収入役室　渡辺誠男
佐藤誠
星野正
広井光代
岡村陽子

産業課
課長　横井義治
広井市郎
高島早苗
山田栄作
農委　桜井仁夫
農委　山田タツエ

土木課
課長補佐　関　玉男
古田島友一郎
野口和幸
真島津

教育
主事　金子　真
小宮山シズ

支所
大淵総
佐藤ヒロ
佐藤昇

森林組合
森山恒治
森山セツ

川口診療所
所長　粟原稔
松野新治
関ムツ
関イシ
山田玲子
荒張千代野

田麦山診療所
所長　宮川よし夫
野口キミ
森山ツイ